

## 「母の日」に思う

春風の暖かさ、新緑の匂い、小鳥のさえずり...。  
とてもさわやかな5月です。  
そして5月といえば「母の日」ですね。

「嫁姑問題」。この関係、ウマが合わないのは一般的常識です。  
しかし、嫁姑よりもこじれているのが「母娘」関係と感じます。  
血縁のない義母に対しては、「大嫌い！」と割り切れる女性も、実母に対しては  
「大嫌い！ でも、嫌いになれない...」という葛藤で悩んでいます。

「母の日の数日後から頭痛がするのです」。そんなご相談を受けました。  
聞けばその女性、カーネーションは平凡だと考え、バラの花を実母に贈った  
そうです。バラは真紅できれいだし、カーネーションよりも高価だし。  
お母さんへの感謝を込めて。

すると、受け取ったお母さん。

「あら～、バラなの～、バラはトゲがあるから苦手なのよねえ～、水やりとか。  
あと、虫が付いちゃったり。カーネーションでよかったのに～」  
そんな母の言葉に、意気消沈.....。  
もう二度とバラは贈るまい、いや、母の日は何もしない！と誓ったそうです。

しかし、血縁はなかなか切れないものです。  
翌年、今度はハンドバッグを母の日にプレゼントしたそうです。  
昨年同様、お母さんへの感謝を込めて。

すると、受け取ったお母さん。

「あら～、今年の初売りでバッグは買ったからよかった(いらなかった)のに。  
茶色のバッグなら使うんだけど～、この色はちょっと派手ねえ～」  
そんな母の言葉に、もう絶対、何も贈るまい！と決意した数日後、頭痛がして  
きたそうです。  
娘の母への「感謝」は、いつしか母への「怒り」に変わっていたのです。

## 批評ではなく、「感謝」を

お母さんが笑顔で一言「ありがとう！」と言ってくれたら、ご相談者は頭痛に苦しむこともなかったでしょう。

母「わぁ～、きれいなバラの花（おしゃれなバッグ）！どうもありがとう」

娘「喜んでもらえてよかった。お母さん、いつもありがとう」

そんなハッピーエンドの「母の日」で終わったはず。

お母さんは確かに「欲しくなかった」のかもしれませんが、「モノ」を評価する、実用性を考えるのではなく、娘の「真心」をもっと大切にしておきたかった…。そして娘に一言、「ありがとう」と。

しかし、お母さん自身、きっと悪気はなかったのでしょう。

実の親子ということで、気を使わずに、つい出た言葉なのかもしれません。

娘さんは、そう頭では理解できても、母親の言動を許す気にはなれなかった。

それが「頭痛」として顕在化された…。

でも「母の日」は「母の日」。

お母さんにイライラする日！ではないのです。

やっぱり、お母さんに感謝する日！なのです。

### 【50歳代女性】

70歳代の実母について相談します。

私が幼い頃から、母は姑に仕え、耐える日々でした。私自身も母に甘えた記憶はなく、いい成績を取るだけが目標でした。

その後、父が単身赴任し、母と私の二人暮らしになると、母の過干渉が始まりました。

結婚したのも、家を出たいという思いがあったからです。今は私も子供が独立し、自由な時間が持てるようになりました。しかし、また母と接する機会が増え、ストレスを感じるのです。母は私の話にことごとく反発します。私にライバル心をむき出しにし、自分がかなわないことには、「いやみ」を言います。例えば、私は整理整頓が好きなのですが、それを「気持ちが悪い」と言います。

50歳を超えた娘の人格を認めていないと感じます。母といなければ穏やかな気持ちでいられます。一方で、母の老後の世話はしたいとも思います。

今後、母にどう接すればいいのでしょうか。

## 母の「人生」を考える

なかなか娘をほめることができないお母さんが多いようです。

では、何故ほめることができないのでしょうか？

きっとお母さん自身が、「ほめられた経験」が少ないのでしょう。

ほめられた経験がなければ、なかなか「ほめ上手」にはなれません。

事実、文中に「母は姑に仕え、耐える日々でした」「父が単身赴任し、母と私の二人暮らしになると～」とあります。

お母さん、耐え難きを耐え、忍び難きを忍びで、他人に甘えることも相談することもできず、黙々と一人で頑張ってきたのでしょう。

姑に仕え、その後、夫が単身赴任してからは母子家庭。

「人生を楽しむ余裕」なんてなかったはずですよ。

当時のお母さんは、姑や夫、そして両親に、もっとほめてもらいたかった、もっと認めてもらいたかったと予想されます。

「よく頑張っているね。ありがとう！」

でも残念ながら、お母さんに「ありがとう」と言ってくれる人は少なかった...

その結果、笑顔は減り、子供（娘）には厳しくなり、だんだんと強情になりひねくれて...。挙げ句、娘の幸せな生活を素直に喜べなくなってしまったのでしょう。

「母の日」には、カーネーションや品物を贈ることよりも、もっと大切なことがあると思います。「母親の人生」をじっくり考えてみるのです。

母親の生い立ち、母親の人生を、母娘の関係を離れて「一人の女性」として客観的に考えてみる。

当時の苦勞、ストレスは何だっただろう？ どんな寂しい思いをしたらだろう？

そうやって、お母さんの気持ちを酌み取ってみるのです。

そしてお母さんに、以下の言葉を伝えられたら最高ですね。

「お母さん、生んでくれてありがとう」

「お母さん、育ててくれてありがとう」

「今の幸せは、お母さんのおかげです」

お母さんに「ありがとう！」と言われなくても、いいじゃないですか。

ただただ「生んでくれたこと」に感謝しましょうよ！

プレゼントにケチをつけられても、「無償の愛」で受け止めましょうね。